

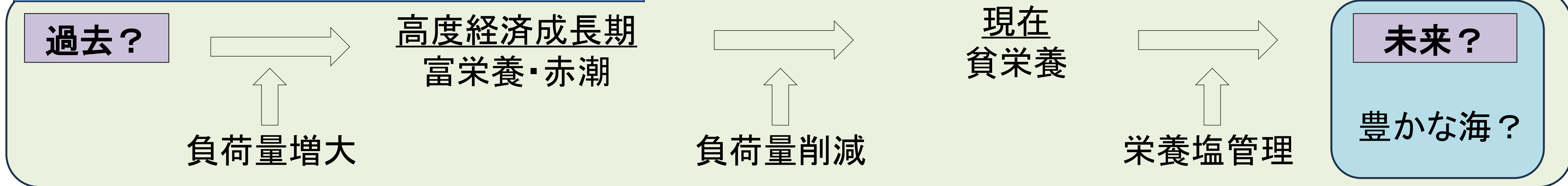
戦前における岡山県の海洋観測の実施状況と100年間の透明度の変化

透明度の長期変化

【背景と目的】

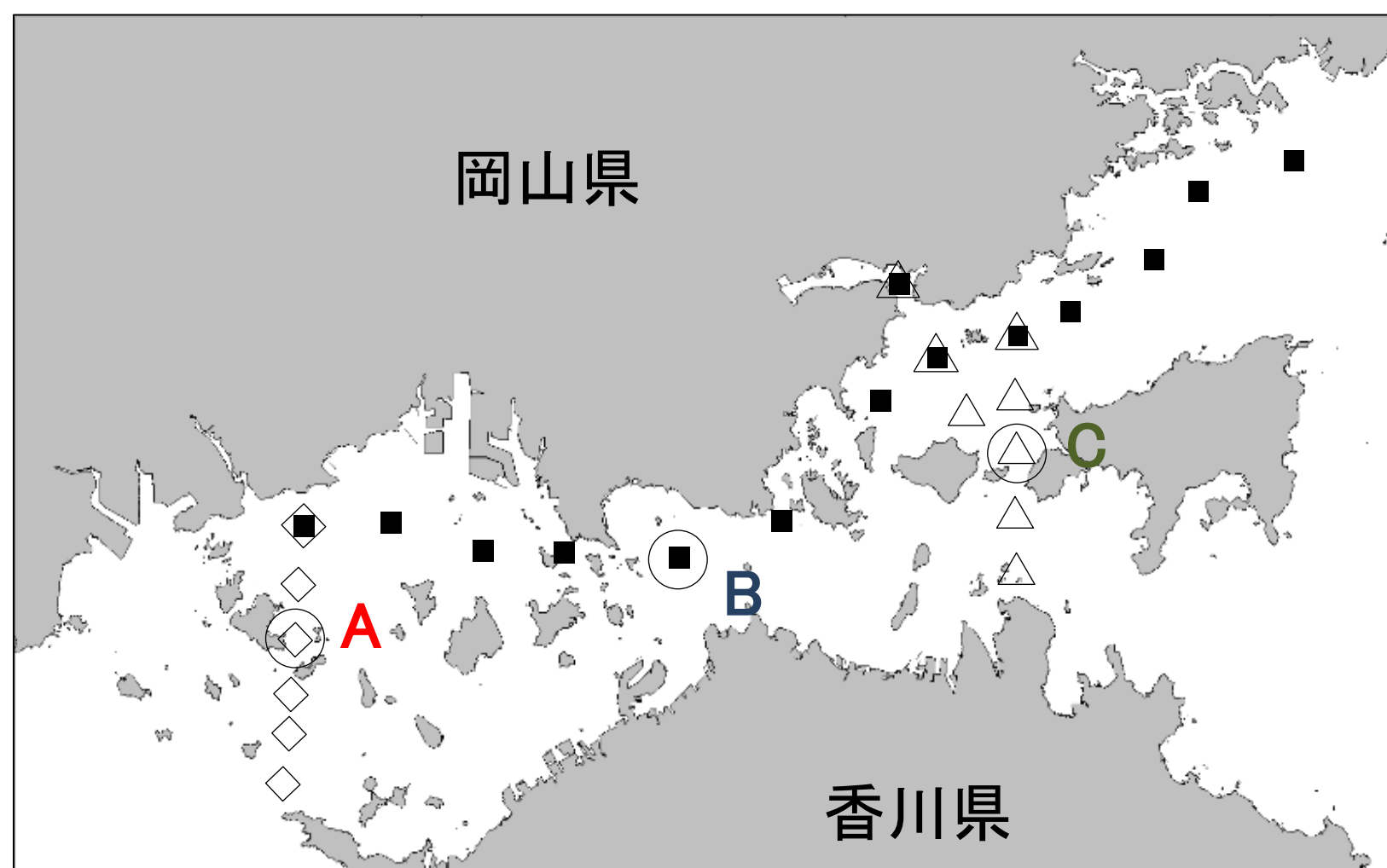
近年、栄養塩（DIN）濃度の低下に伴って漁業生産量が減少し、豊かな海の実現に向けた栄養塩管理が進められている。そういった中、目標とする海を考えるための資料として、戦前の海洋観測の実施状況を整理し、100年間の透明度の変化を調べた。

瀬戸内海の水質変化の歴史とこれから



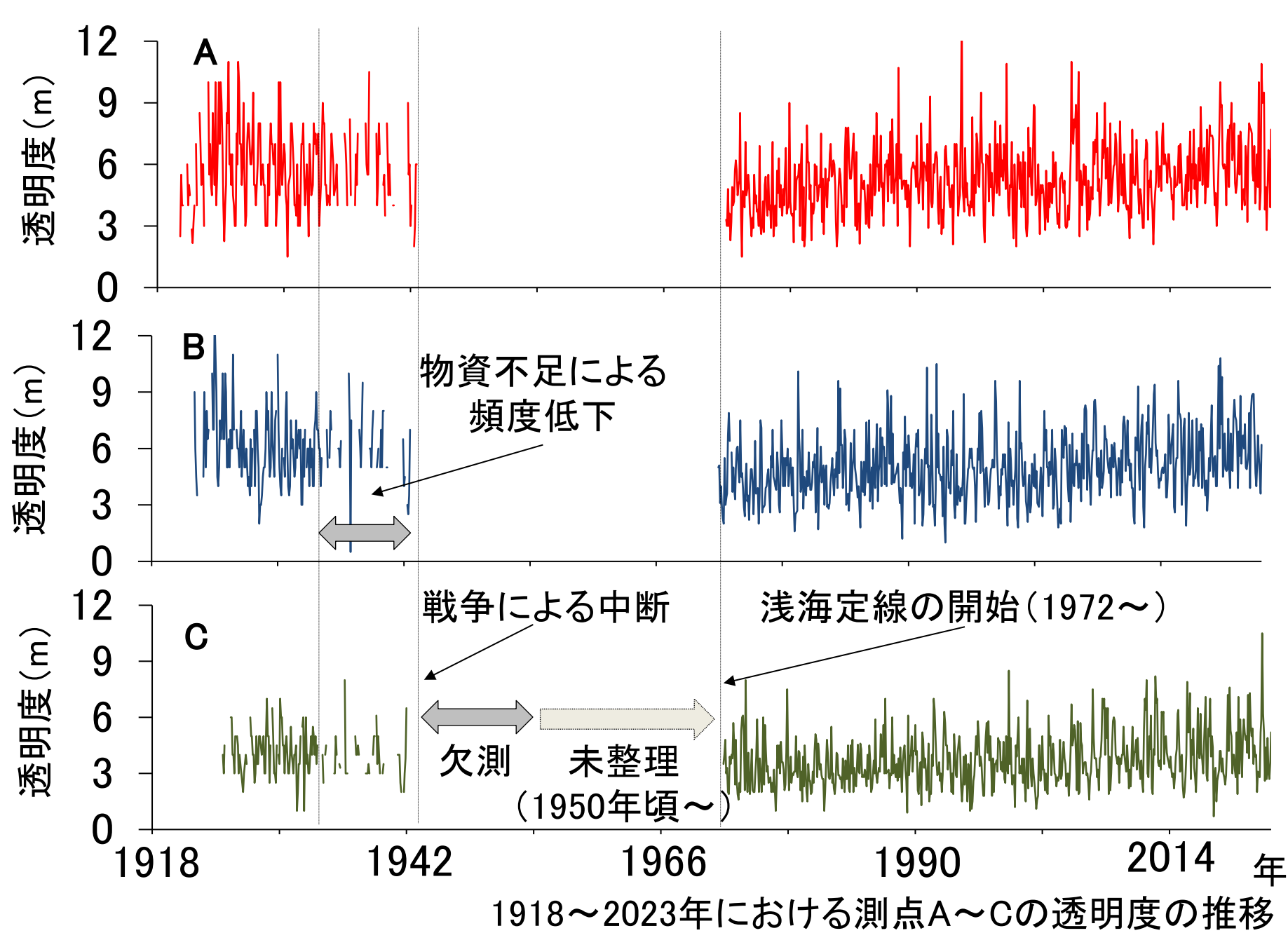
【成果の内容】

大正7(1918)～昭和18(1943)年度の報告書を基に、海洋観測の実施定点、実施日、項目を整理し、現在と同じ3定点（A, B, C）における100年間の透明度の変化を調べました。

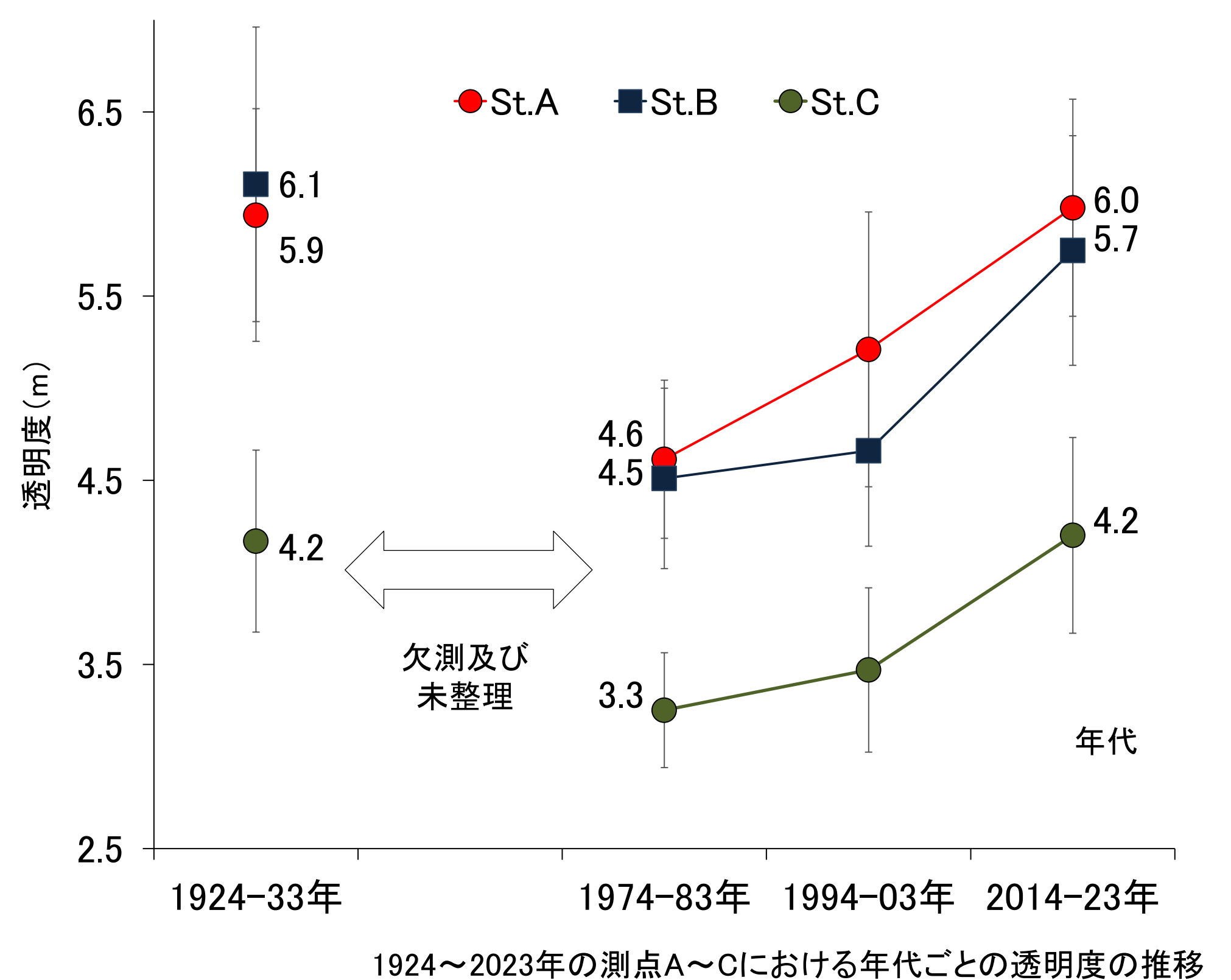


戦前の海洋観測の定点
(◇:1918～43年, ■:1921～43年, △:1925～43年)

実施場所と年代が異なる3つの観測が戦前に実施されていました



戦争に伴う中断がありましたが、透明度の観測が継続されていました



3定点ともに1974-83年に透明度が最も低く、1924-33年と2014-23年は同程度でした

透明度を指標とすると、今の海の綺麗さは戦前と同程度であり、その豊かさ（生産量）も戦前と同程度と考えられました

100年間の透明度の変化を明らかにすることができました。この結果を今後の「瀬戸内海の在り方」を考えるための資料として使用します

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター 水産研究所
瀬戸内市牛窓町鹿忍6641-6 TEL. 0869-34-3074